



発行所  
 兵庫県精神薄弱者愛護協会  
 兵庫県育成会施設保護者協議会  
 〒654  
 神戸市須磨区友が丘 1-15-1  
 発行責任者 金附 洋一郎  
 印刷所 交友印刷株式会社  
 〒652  
 神戸市兵庫区水木通9丁目1-34  
 電話 (078)576-6161

# まず出会うことがはじまり

兵庫県精神薄弱者愛護協会  
 研修委員長、一羊園々長 藤田 隆治

つい先日、西宮のあるギャラリーで田島征三展をみる機会がありました。田島さんは「ふるやのもり」「ふきまんぶく」「とべバツタ」等、数多くの絵本を出された画家です。今までのかわいくて、きれいな絵本の世界の常識を破る、力強く泥くさい絵で衝撃をあたえた人です。

その田島さんが信楽青年寮の人達と出会い、彼等の土塊や和紙に色をぬり、絵を描いたりしたものが展示されてきました。会場で暖かい眼と人柄の田島さんに会うことができ、是非ひとつほしくなりました。その中で少し安かった版画の大作を思い切って買いました。ただの土塊や和紙が一人の芸術家と出会い、人を感じさせる作品に生まれかわったのです。

兵庫県は施設数では北海道に次ぎ全国で2番目。百施設を越そうという勢いです。厚生省にいわせると、施設のワーストワンに兵庫県が位置しているようで、悲しい出来事や不名誉な事件が残念ながら、数々ありました。県の愛護協会の役員の中で、このままではいけないと反省や論議が、金附会長を中心におこっています。

一度失った信用は、そう簡単に取りもどせるものではありませんが、これから地道に努力していく外に方法はありません。

私がこの仕事をはじめた頃に比べると施設の状況も随分変化しましたが、要求や問題が多様化し、障害も対応も複雑になり、福祉の進む方向も混沌としているように思います。

一人で悩んだり、問題をかかえるのではなく、同じ悩みや問題をかかえた者同志で「こんな方法もある」「こんな考え方はどうか」等、もつと情報交換したり、研鑽していくことが、これから大切になってくるのではないのでしょうか。知恵おくれのお子さんを持つ親も、小さい時から適確な対応や育て方を身につけ実践することで障害が軽減され、自分のことが少しでも多く、出来るようになるものなのです。これからは一施設や、個人の力だけでは対応できない、むつかしい時代です。

今、県下の調理部門の人達の研修会を9月にはじめてもとうと計画しています。「愛護の集い」も形式的な集まりではないようにと検討されています。

ています。12月には県の施設長の一泊研修会が久しぶりにもたれます。来年の2月には近畿ブロックの研修の当番県として、数多くの人達を兵庫県に迎えます。

最近ある通所授産施設を訪問しました。そこは白を基調としたモダンな建物で、花がそこかしこに育てられ、壁には絵が飾られ、臭いもなく、そして園生が作業に熱心に取り組んでいました。ボランティアの受け入れが月に百名以上もあるとか、今までの施設のイメージを一掃するようなすばらしい印象を持ちました。やっとな施設もあたりまえの場所になってきたように思います。

今度新しくグループホームの制度ができ、予算がつかまりました。私どもの一羊会でグループホームを取り入れるべく交渉中です。この制度が広がっていくれば、より中広い対応が可能になってくるかも知れません。

県の入所者の互助会が軌道に乗り2年目を迎えました。一羊園でも何度か給付を受けることができ、心強く思います。

田島さんと信楽青年寮との出会いで、すばらしい作品ができたように、積極的な出会いや研修で、あちらこちらに信頼を取りもどすような取り組みが、県下花咲くように、私も微力ながらお手伝いしていきたいと考えています。

# 全国施設長会議に出席して

金 附 洋 一 郎

5月24日、25日、東京教育開館ホールに各地から一五〇〇余名が出席した全国施設長会議の初日に焦点を当ててご報告します。

最初に小泉厚生大臣の挨拶、長尾児童家庭局長からは「地域福祉に向けての協力と高令化について論議を深めてほしい」と意見を述べられた。主催者を代表して江草会長は愛護協会の過去一年間の活動にふれ、

1 人権擁護のための最低限の処遇チェック表の作製。

2 社会福祉士養成通信教育の発足。

3 世界リハビリ東京会議で精神薄弱者に関する特別分科会の設置。

4 ダブリンの国際会議で愛護協会発行の「加令化の軌跡」が功労賞を受賞した。

などを報告し、平成元年度の諸活動を意義あるものとしてと締めくくった。

つづいて浅野障害福祉課長が「これからの施設の課題」について講演した。地域を海のように捉え、施設はグループホームを含めて、海の家と考える。海には情報があり、そこには援助者による訓練も遊びもある。海の家（施設）は憩の仮の家であ

ある。障害者が何故施設に住まねばならないかを考えてほしいと訴えられたが、この辺は昨年と比べて慎重な表現であったと思います。

なお続いて施設は訓練、衣食住、余暇の数多くのサービス提供ができるが、小規模作業所とか在宅者のサービスの皆無に近いことも考えての援助、重度行動障害者については援助マニュアルや専門性不足から、まだ手がつけれられていない現状を認識してほしいと発言があった。

深沢課長補佐の予算説明においては平成元年度施設整備は九〇ヶ所、グループホーム一〇〇ヶ所新設を含めて前年比五％の伸び、文部省永田特殊教育課長補佐は養護学校高等部に職業指導の徹底を、労働省津田専門官は全国に職業準備訓練センター六ヶ所、第三セクターの重度者雇用能力開発センター一ヶ所増設の趣旨説明があった。

午後から各部会長が児童家庭局と質疑応答形式がもたれた。

◆児童施設部会長・定員減少、職員配置、施設転換について所見を求めた。

浅野課長「共通認識にたつて将来展望に向け専門性の向上を図りたい

い」  
◆児童通園部会長、低年齢化、重複化から施設種別の枠を外し通園日の弾力的運用はどうか。

浅野課長「現状については承知しており、ニーズに対応してできるところからやりたい」。

◆更生部会長、労働時間短縮への対応として措置費の上乗せは？

浅野課長「閣議決定は変えられない」

◆授産部会長、全国実態調査では入所者の能力差がみられることから、授産、更生の併用は考えられるか、福祉工場について授産の一部門を切り離し福祉就労場が可能か？

浅野課長「併用型は今後の検討とし、福祉工場については最低賃金のしほりをクリヤーできるかどうか、

◆通勤寮部会長、第一種社会福祉事業としての認可を希望するが？

中沢専門官「これについては議論の余地があるのではないかと回答された。

他にフロアから無年金障害者への配慮、授産施設の重度者対策、消費税等について鋭い質問があった。

## 平成元年度、県愛護協会役員

- ▽会長 金附洋一郎（神戸聖生園園長）
- ▽副会長 大久保茂男（三美学園園長）
- 大村 寛（もみじ園園長）
- 田中 昭二（赤穂精華園園長）
- 村上 勝（おもいけ園園長）
- 松尾 静子（さわらび園園長）
- ▽児童通園部会長 大伏 裕三（のばら学園園長）
- ▽児童施設部会長 堺 敦（三田谷治療教育院長）
- ▽更生施設部会長 松浪 三男（木の根学園園長）
- ▽授産施設部会長 村上 勝（おもいけ園園長）
- ▽通勤寮施設部会長 藤本 努（ようばく寮寮長）
- ▽職員部会長 藤川 勝（春日育成苑）
- ▽監事 中安 貞雄（姫路学園園長）
- 河嶋 良男（神戸光生園）
- ▽事務局長、兼医療対策委員長 福田 和臣（愛心園園長）
- ▽委員長 藤田 隆治（一羊園園長）
- 藤田 英一（さつき学園園長）

Ⅱ広報

### 平成元年度県愛護協会 事業計画と予算

広い県域と施設数の増加から、県下を播淡・神戸・阪但丹の三地区に分けてその地域性を生かしながら近隣施設とネットワークをつくり連帯を保つこと、また五つの部会に分かれて縦の組織を通して共通の課題に取り組み、即ち縦と横の情報交換、密接な協力が生まれれば、従前以上の活動強化が図れると考えます。

各園施設においては、全国愛護からの情報として昨年度から持ち越しの「自立への方策」をさぐることに、又入所者の「人権尊重」を守るなど当面する課題に向けて絶ゆまぬ努力をして戴きたいと思えます。

平成元年度、全国一〇〇ヶ所のグループホームは十分に消化されていない面もありますが、各施設が地域福祉の担い手として前向きにとりくんでほしいと思えます。

具体的な事業計画は役員会の充実を図ってそこで事業決定をしますが、職員バレーボール大会、近畿福祉野球大会、施設親善陸上協議大会は職員部会を中心に、愛護の集い、精神薄弱者福祉大会、入院共済互助会、新年会、近畿愛護役員会は施設長部会が担当し、近畿ブロック職員

研修会及び各種の職員研修会は研修部会が担当し、それぞれ成果を収めるように協力をお願いします。

### 平成元年度予算

収入	単位：円			
項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
日本愛護協会費	3,100,000	2,972,000	128,000	95施設分
兵庫県愛護協会費	2,800,000	2,600,000	200,000	
助成金	910,000	500,000	410,000	共同募金 保護者協議会 神戸新聞厚生事業団 県連合婦人会 兵庫県友愛基金 県社協
本部助成金	200,000	120,000	80,000	近プロ職員研修
雑収入	20,000	10,000	10,000	
繰越金	950,381	475,263	475,118	繰越1,183,026円のうち232,645円を積立金とする
計	7,980,381	6,677,263	1,303,118	

支出	単位：円			
項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
日本愛護分担金	3,100,000	2,972,000	128,000	95施設分
県愛護分担金	850,000	650,000	200,000	
その他分担金	300,000	300,000	0	
会議費	250,000	200,000	50,000	
旅費	100,000	100,000	0	
部会活動費	435,000	400,000	35,000	
事務費	750,000	660,000	90,000	事務員パート384,000
事業費	700,000	350,000	350,000	陸上競技、愛護の集い、バレーボール他、福祉野球
委員会活動費	100,000	100,000	0	近プロ職員研実行委員会
広報部	300,000	300,000	0	愛護ニュース2回
慶弔費	50,000	50,000	0	
顕彰費	200,000	200,000	0	15年勤続者20名
近プロ職員研修会	400,000	160,000	240,000	参加者400名予定
手引書の発行	0	200,000	△200,000	
予備費	445,381	35,263	410,118	
合計	7,980,381	6,677,263	1,303,118	



# 精神薄弱児(児)者ニーズ調査報告書より

兵庫県民生部障害福祉課は、昨年10月～12月にかけて、県内一三、二〇〇名の療育手帳所持者の中から

二、五一〇名を抽出し、その家族に対象者のニーズ調査を実施した。この調査により、処遇のあり方について福祉施策の方向を定める基礎資料とするためである。その結果がこの程、「精神薄弱児者ニーズ調査報告書」として発表された。

調査項目の主なもの、家族状況、子どもの状況(障害程度、日常生活、養育(介護)状況、教育、福祉サービス)の利用状況及びそれに対する要望、高齢化社会に対する親の意義等である。

調査票回収率は七五・一%で有効回答は一、六三八(八五・二%)であった。調査結果をまとめて結論が述べられている。それによると、

一、判定機関、機能の充実と早期スクリーニング

精神薄弱と判定した機関は児童相談所と病院が圧倒的に多かった。しかも乳幼児期に判定をうけたものが多く、児童相談所の判定機能の向上と充実、相談機能の充実をはかることが必要、又早期発見、早期指導介入の為に組織的な早期スクリーニン

グ体制が必要。

二、軽度精神薄弱児者中、重度精神薄弱児者にみる訓練上の問題

軽度の児者にあたっては、環境からの教育的援助によってかなり成果が期待される。しかし、この教育可能性と裏腹にまわりの俗悪な環境からの影響にも反応しやすく、様々な問題行動を引き起こしやすいくことに十分な配慮が必要。又周りをとりまく物心環境条件は充分でなく改善が必須である。

重度の児者では親の熱意にみちた指導や期待に答えうるだけの教育訓練効果がみられず、そのために深刻な家庭問題をおこしかねない。

これらは処遇のうえで予め充分念頭に入れるべき事柄である。

三、自立と社会参加を目指す就労訓練の問題

自立と社会参加のため適切な訓練と十分な条件整備によって、ひとりでも多くの者が企業で働けるようにすることが課題である。そのための技能訓練と同時に学習態度の訓練が必要である。働くことの出来る職場は多いが、締め出されており、行政、

企業、有識者による専門委員会での検討し具体策を作成すべきである。

四、恵まれない物心二面性の環境の直視

児者を取りまく環境は、他の一般家庭と同様核家族で、近所づきあいも形式的な傾向にある。又家庭内では親が主たる養育者であるが、兄弟姉妹は特に面倒を見る気持ちは少ない。親子共どもに高齢化に向かい、深刻な問題がある。これを解決するのはコミュニティの意識改革による実践活動以外にない。行政はコミュニティに働きかけ、介護者の人材養成が第一である。次いでミニホーム確保の具体案を早急に具体化する必要がある。

五、積極的で頼れる相談

親は行政機関での相談を利用している者が多いが、決して満足していないとはいえない。したがってフォローマルな相談に終わることなく、心がいやされるほどの相談になりうるよう福祉の最前線での職員の意識改革と、より豊かなパーソナリティを求めて何をすべきかを真険に考える必要と向上をはかる努力も必要。

六、心の通い合える施策

親の心情は、永久にぬぐいさるこ

との出来ない不安と苦悩にゆれ動いている。その事実を、行政やコミュニティは十分記録する必要がある。このいやされることのない心の悩みを共感することが、両親を力づけ、明日への希望をもたらすことになる。これは単なる観念的なものであつたり、その場限りの安直なものであつてはならない。両親の苦悩をともに分かちあえるコミュニティづくりのため努力が永遠に続けられねばならない。その上に立つた援助が望まれる。

学校教育への親の希望は、(1)統合教育の充実 (2)就労訓練と職場の開拓 (3)進路指導の充実である。両親のわが子を手放したくないという心底からの願いを充分踏まえての教育福祉のあり方を考える必要がある。

居住施設について、出来れば入居したくない、ギリギリまで家庭におき通所施設に通わせ、高齢になつたとき生活させたいと希望しており、施設希望として、(1)通所施設の建築 (2)職業、生活訓練施設 (3)高齢化した親子が一諸に生活出来る施設の施設が挙げられた。

七、精神薄弱児者の遠い将来を見定める必要性(中略)

今回のニーズ調査は時期を得たもので、今後の施策の実現が期待されます。(文責・広報委員長 礎)



# 第十五回精華園祭を終えて

兵庫県施設保護者協議会長  
赤穂精華園愛護会長

原 辰 男

第十五回精華園祭が平成元年五月十四日(日)に開催されました。

前日準備の時、天候が案じられましたが、天の助けか当日は好天に恵まれ、大盛況のうちに無事終える事ができました。昭和五十年第一回精華園祭を始めるに当たり、子供達が幸福になり、施設をよくするには、

親はどうすればよいかと、当時副会長の松本氏を中心に、日夜相談を重ねました。聞きますところ、四国の草の実学園が全国でも珍しい園祭を

実行しているの、見学に行くことになり、五月の連休に大型バス一台満員で一泊研修のため出発しました。当時私達には信じられない様な大変な事が出来るものと関心致しました。早速自分達でも「やりましよう」とその年七月一日に、いづみ棟の竣工式の日を記念して、小林園長先生や藤井次長先生のお力ぞえで、

第一回園祭を無我夢中で挙行いたしました。第二回目より毎年五月の第二日曜日に定め、テーマを「この子らを、みんなで知ろう、育てよう」との合言葉で地域の方々に、お願いしましたところ、各方面より園祭に参加して下さるようになり、毎年精華園祭が定着してまいりました。

園祭で蓄えた資金は子供達の足となるマイクロスバス・十九人乗りを買いました。昨年は、前回のマイクロスバスが古くなっておりましてので、二台目三十五人乗りを十四回園祭当日に子供達に贈呈いたしました。

園では大変喜んで利用して下さいます。親達が一生懸命する姿に、園の先生方、又地域の方々の応援ですばらしい園祭が出来るようになりまして、来年は十五周年を節目として初心にかえって、見直ししようとの意見も出、五月三日、園のマイクロスバスに、職員、父兄が同乗し草の実学園を再度、団体で見学してまいりました。昔の様なおどろきはありませんが、さすが施設も新しく増えて立派になっていきます。親達の一人一人の力は小さいが、みんな一丸となって働く時、すばらしい結果が生まれるものと実感いたしました。

精華園祭の内容を簡単に紹介します。

行事項目 担当協力団体

案内「総務」 愛護会

受付 園職員 愛護会

会員受付 愛護会

駐車場案内 愛護会 ポーイスカウト

接待 園 愛護会

交通 赤穂ボーイスカウト

## 記録 園 愛護会

食券販売 愛護会

(1)バザー日用品 婦人会

(2)バザー日用品 赤穂育成会 愛護会

手づくり品 愛護会

陶芸品 番寺やきもの会

ライオンズクラブ

金物 三木精愛園

果物、食品 兄弟姉妹の会

園内生産品 婦人民生委員 園生

青空市場 ロータリークラブ

抽選会、演奏芸芸会 南野中自治会

演奏芸芸会 赤穂市ボランティア協会

模擬店関東煮うどん 塩屋地区婦人会

草もち レディースボランティア

焼そば 四葉会 愛護会

弁当販売 赤穂消費者協会

弁当作り 愛護会

のみもの 大津自治会

お茶席 赤穂裏千家同好会

コーヒー 赤穂市喫茶組合

協力出店 今井商店 いづみや

協力団体 塩屋地区連合自治会

協力団体 塩屋地区老人会

後援 赤穂市福祉事務所

後援 赤穂市福祉協議会

右記の通りに行事を行いました。

本日反省会を終え、新しい気持ちで第十六回園祭に向けて頑張りましようとの誓い合い園を後にしましたが、

どうか今後共皆様方の御指導をお願いする次第です。

「第一回播淡地区施設親善運動会」  
六月十六日、姫路市厚生会館



第一回播淡地区施設親善運動会

三年前よりあためてきた「播淡地区の運動会」は、職員代表会の手で、二十四施設の入所者・職員・保護者ら七百名近くが、姫路市厚生会館に集まり、広い会館の中で一日、ゲームやダンスを楽しんだ。

中でも仮装行列は各園の工夫も面白く、みんなを楽しませた。

播淡地区では、職員代表者会を中心に、生活部会、健康部会、調査部会、保護者部会、作業部会、事務部会、児童部会に分かれて研修を進めているが、入所者を中心とした行事が持てたことは嬉しい。

# 施設保護者協議会総会、研修会開催



平成元年年度の兵庫県精神薄弱者育成会施設保護者協議会総会・研修会が六月二十八日、神戸市しあわせの村で開催された。

しあわせの村は、神戸市が当初計画以来、十数年の年月と巨額の経費を投じて建設整備した広大な総合福祉ゾーンである。

この村に精神薄弱者福祉施設として神戸市精神薄弱者育成会が推進母体となった社会福祉法人新緑福祉会が運営するワークホーム緑友とグリーンホーム平成がある。

総会は、研修館に於いて行い、前年度の事業報告、会計報告と本年度の事業計画及び会計予算審議が藤原武雄議長によって進められ、満場一致で可決された。

本年度の主な事業としては、県愛護協会、県育成会の事業活動の協力

援助を基本として進めることとして、次ぎのようなものが計画されている。

- ①兵庫県精神薄弱者育成会との関係強化
- ・役員一泊研修会の共催
- ・育成会関係の大会・研修会への参加
- ・指導誌「手をつなぐ親たち」の講読
- ・地区活動の相互協力
- ②兵庫県精神薄弱者愛護協会との共催事業、後援活動の推進
- ・愛護のつどい共催
- ・県施設親善陸上競技大会後援
- ・愛護ニュース発行補助
- ③兵庫県精神薄弱児者施設入所者等互助会の事業推進協力
- ・意見交換として
- ④障害年金、手当での使い方と施設への協力



②研修部会を作り、話し合うこと必要

③各施設での保護者の活動状況の情報交換

④育成会への加入、指導誌の講読等が行われた。

研修会は、前記二つの施設見学と施設長の運営状況の講話を聞く。

ワークホーム緑友は、昭和六十二年に開設された定員五十名の通所授産施設であり、授産科目として、バッグ、紙箱の製作、手芸、編物、食料品の袋詰、地域清掃、除草作業等がある。

福永所長は「この施設の主人公は園生であり、所長はじめ指導員は主人公への奉仕者である」と述べておられたがここに緑友の経営哲学を見ることが出来る。

グリーンホーム平成は、この六月一日に完成した新鮮な感じにあふれ、園生も指導員もその喜び一ぱいでこの施設での生活を満喫している。

河野所長は「自由な雰囲気の中に規律正しい訓練を行い、夜はぐっすり眠れること」を目標としていると語られた。

定員は、五十名で、訓練種目として、生活訓練、体育訓練、音楽リズム訓練、絵画、作業訓練等がある。

三時頃、研修も終わり、しあわせの村を自由に散策したり、美しい日本庭園の鑑賞、バーデハウスで汗を

流す等と思いいいに楽しいひとときを過ごし帰途についた。

## あなたへ

本年五月末から9日間障害者と両親、兄弟15組の第2回カナダ、アメリカ親善ツアーに参加した神戸聖生園保護者会長、吉田さんが訪問先の施設の英文メッセージを翻訳してくれましたので紹介します。

一、わかりにくい私達の語りかけの言葉をやつくり聴いてくださる、あなた。

二、おかしな目つきを気にせずに私達と一緒に町を歩いてくださる、あなた。

三、けつして私達をせきたたせない、あなた。

四、初めての経験に挑戦する私達をじつと見守ってください、あなた。

五、私達の力を必要としてくださる、あなた。

六、葦のように弱い、今にも消えそうな灯芯の私達に手を差伸べてくださる、あなた。

七、個性を豊かに伸ばしてください、あなた。

八、言葉では言えない安心を与えてくださる、あなた。

オントリオ州エルミラ市 クリスチャン ホライズンより あなた。をお父さん、お母さん、職員とおきかえて下さい。



施設紹介

▲精神薄弱者更生施設▼  
社会福祉法人ヨハネ会

ヨゼフ寮

所在地 神戸市北区淡河町神田

382-127

☎078(958)0109

設立 昭和63年4月1日

定員 50人

施設長 岩田 峰幸

職員数 26人(嘱託医2人)



ヨゼフ寮は、その名の示すとおり、キリスト教がその背景となっており、

て、社会福祉法人ヨハネ会をバックアップしているのは男子修道会のカトリック聖ヨハネ病院修道会です。この修道会は西ドイツに管区本部があつて昭和28年に最初の宣教師が来日しています。昭和37年に修道会の敷地内(須磨)に、精神障害回復者のための救護施設ヨハネ寮(定員男子50人)を開設しています。数年前から、神戸市精神薄弱者育成会及び神戸市民生局から施設建設の強い要望があり、昭和45年に取得していた北区淡河町にヨゼフ寮を開設した次第です。

ヨゼフ寮には、現在男子26人、女子24人が共に生活しています。その内31名が重度者として判定を受けています。最低年齢は16才、最高年齢56才、平均年齢は31才となっています。日常生活では、キリスト教精神による愛を中心に家庭的な雰囲気づくりを目指しています。寮育面では製箱、紙すき、農耕、演芸作業のほか、手芸、機能訓練、個別学習、クラブ活動(音楽、創作、スポーツ、料理)と取り組んでいます。年間行事も色々取り入れ職員一同一丸となつて頑張っています。2年目に入りましたので、とくに、個別処遇の見直しと、個別指導を強め、地域の方にももっと施設を知って貰う努力をし、現任訓練しながら進めます。

▲精神薄弱者通所更生施設▼

龍野つくし園

所在地 龍野市龍野町富永四五八

番地の一

☎0791(63)4981

設立 昭和63年4月1日

定員 30人

施設長 小林 勇

職員数 8人(嘱託医1人)

龍野つくし園は、昨年四月に開園。当施設は障害をもつ園生と高齢者の方々が、お互いに励まし助け合い明るく生きていく拠点として設立されました。

指導訓練の重点目標としては、精神薄弱者を保護し自立更生に必要な、生活、学習、作業、体育等の指導訓練をしています。そしてすこしでも社会生活に適應できる豊かな人間性を育てることをねらいとしています。

年間の主な行事としては、お誕生会、映画会、交通安全訓練、避難訓練、買い物指導、外食指導、社会見学、ボーリング大会、野外活動、また家庭



訪問、保護者個別面談を予定、昨年実施してきました。また、ふれあい運動会を老人部といっしょに実施しました。また三月には生きがいセンター祭を盛大に行うことができました。このような、指導や行事を通じて園への理解と協力を得るため、保護者、関係団体と連携しながら、地域の人々との交流の場が作られるよう努力しています。



《精神薄弱者通所更生施設》  
 社会福祉法人さつき福祉会

### おおや作業所

所在地 養父郡大屋町大屋市場九  
 三八番地

☎〇七九六(六九一六一一)

設立 昭和58年4月1日

定員 25人

施設長 井上 典昭

職員数 10人(嘱託医2人)

沿革

おおや作業所は、昭和五十二年に  
 地域の人達に支えられ、「おおや共

同作業所」として誕生。六年後の昭和五十八年、さつき福祉会が運営する施設おおや作業所として法定化され建物も新たに建設、再スタートをきりました。以来、「ボランティアおおや」の核となる施設として位置づけられ今日に至っております。

#### 施設運営の基本方針

入所者を中心にした施設運営をめざして、入所者の人権を尊重し、個々の人格・人間性の成長を援助して社会生活の自立を援助し、限りない発達と生きがいをめざします。

#### 指導内容

障害の程度に応じた個別指導と集団指導とを有機的に結合させ、成果を得られるよう努め、施設で指導できない部分を自活訓練施設さつきホームで補完して自立・自活訓練指導をおこなっています。

又、作業を通じて機能の回復増進、注意力、判断力などの発達を促し、個人の能力開発に努めています。

#### 振興計画

福祉会は、平成四年春、更生居住施設(定員五〇名(二〇)名)の開設をめざして精力的な取り組みをしております。これが完成すると地域の中核的施設として発展が期待され、通所施設おおや作業所と一体化した運営で、その機能をよりたかめることができると確信しております。

## 〔日誌抄〕

- 2月27日 入院共済理事会
- 3月16日 授産、更生部会
- 4月22日 入院共済理事会
- 4月28日 県愛護総会(勤労会館)
- 5月8日 市愛護総会(六甲荘)
- 5月12日 近畿愛護総会 大阪
- 5月23日 日本愛護理事会 東京
- 5月24日 日本愛護、全国施設長会
- 5月25日 (東京、教育会館)
- 5月30日 役員会
- 6月11日 市愛護一八校園春の集い
- 6月16日 播淡運動会 姫路
- 6月19日 役員会
- 6月28日 保護者協議会総会 (しあわせの村)
- 7月4日 日本愛護理事会 東京
- 7月9日 バレーボール大会 明石
- 7月14日 第12回全国短期母子療育施設協議会 滋賀
- 7月15日 役員会
- 7月28日 近畿役員会、なにわ会館
- 8月18日 播淡研修会 竜野
- 8月23日 児通園部会、しあわせの村
- 8月24日 福祉野球 神戸市民球場
- 9月12日 第27回全国職員研究大会 (兵庫、発題3件) 香川
- 9月15日 第29回近畿育成大会
- 9月15日 フェスピック神戸大会(開
- 9月20日 会式参加) 総合運動公園
- 9月16日 役員会
- 9月25日 愛護の集い 労働センター

- 9月30日 入院共済理事会
- 10月5日 第33回県精神薄弱者福祉大会 尼崎
- 10月13日 近畿役員会
- 10月15日 12校園合同運動会 神戸
- 10月20日 第24回施設親善陸上競技大会 明石
- 10月25日 県社会福祉大会 高砂
- 11月15日 近畿施設長会
- 11月16日 (なにわ会館) 大阪
- 11月18日 入院共済理事会
- 12月1日 県愛護施設長一泊研修会 (しあわせの村)

## お知らせ

- ▼愛護の集い
- 9月25日、兵庫県中央労働センター大ホールで開催予定。
- ▼犬伏祐三 作品展
- 8月25日～30日 サンパル市民ギャラリーにて

主催 神戸市都市整備公社  
 後援 神戸市、神戸市教育委員会  
 犬伏先生は県愛護役員で、市立のばら学園々長です。

## あとがき

暑中お見舞い申し上げます。皆様のご協力により32号をお届けいたします。今後もしどしご寄稿お待ちしております。